

本時の見どころ

八代には、古麓城、麦島城、松江城という城の変遷があります。私たちの暮らす八代が遠い過去とつながっていることが実感できます。本時は、中世の山城である古麓城を舞台に「なぜ相良氏と名和氏が八代を取り合っていくのか」という問いに迫ります。歴史の学習を身近なものとして捉えることで、歴史の面白さやこの時代を生きた人々の活力を感じ取り、中世社会の理解を深め、ふるさとの魅力に気づき、郷土愛を深めることをねらいとしています。

社会科（歴史的分野）学習指導案

日 時	令和元年11月19日（火）第2校時
場 所	八代市立第一中学校1年3組教室
年 組	八代市立第一中学校1年3組42名
指導者	八代市立第一中学校 教諭 瀬崇行

1 単元名 「東アジア世界との関わりと社会の変動」（東京書籍 p.76~p.87）

2 単元について

(1) 単元観

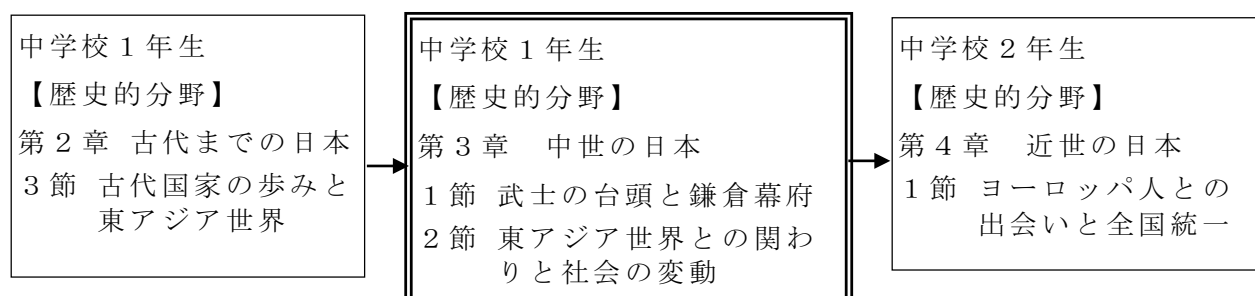
本単元は、中学校学習指導要領の内容（3）中世の日本のアにおける「鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕府、東アジアの国際関係、応仁の乱後の社会の変動などを通して、武家政治の特色を考えさせ、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解させる」ことをねらいとしている。

御家人制度を基盤とする鎌倉幕府が成立し、その後南北朝の争乱の中で室町幕府が成立するという動きを通じて、次第に武士たちは大きな力を持つようになる。一方で、承久の乱や元寇など国の内外からの影響を受けるたびに武家政権は大きく動揺した。また、民衆は変化する政権に対応しながら経済力を高め、中世の後期には成長した地方勢力や民衆の力によって幕府による支配は次第に力を失っていく。やがて、応仁の乱をきっかけに戦国時代に突入し、下剋上の風潮のもとで新たな秩序が作られ、近世へと移行していった。

また、中学校学習指導要領解説社会編の目標（4）では、「身近な地域の歴史や具体的な事象の学習を通して歴史に対する興味・関心を高めることが求められる」とある。八代には、中世から近世にかけて作られた城が、山城の古麓城、平城になった麦島城、麦島城が地震で倒壊したために作られた松江城（現在の八代城跡）の3カ所があり、戦国大名の領国支配において、中央の歴史と地方の歴史のつながりを考えさせることにおいても価値のある題材であると考えられる。本単元を通して、身近な地域の歴史に対する関心を高めさせるきっかけとしたい。

(2) 系統観

本単元における系統は以下の通りである。



(3) 生徒観

本学級は 42 名で、明るく元気な学級である。本単元に関するアンケートをとった所、以下のような結果になった。

- 1 あなたは、歴史に興味がありますか。
 - ・ある 37 名
 - ・ない 1 名
- 2 あなたが知っている「城」の名前を知っているだけ書きなさい。
 - ・熊本城 36 名
 - ・大阪城 25 名
 - ・姫路城 22 名
 - ・八代城 12 名
 - ・江戸城, 名古屋城, 安土城 10 名
- 3 何のために「城」が作られたと思いますか？
 - ・強く見せる, 権威を示す 13 名
 - ・殿様の命を守るため 10 名
 - ・敵からの攻撃を防ぐため 8 名
 - ・殿様が住むため 5 名
 - ・自分の土地だと示すため 3 名
 - ・宝物を置くため 2 名
 - ・町の人をまとめるため, 大きな家に住むため, 歴史を残すため 1 名
- 4 「城」と聞いてイメージすることは何ですか。
 - ・大きい 20 名
 - ・石垣 17 名
 - ・しゃちほこ 14 名
 - ・お金がかかっている 4 名
 - ・殿様や身分が高い人が住む 6 名
 - ・戦いや攻撃を防ぐ 3 名
 - ・強そう, 権力, きれい, 天守閣 2 名
 - ・戦国大名の家, 宝物がある, 武者返し, お堀, 熊本城, 歴史 1 名
- 5 あなたが知っている戦国大名について書きなさい。
 - ・織田信長 36 名
 - ・豊臣秀吉 35 名
 - ・徳川家康 29 名
 - ・上杉謙信 11 名
 - ・明智光秀, 石田三成 7 名
 - ・武田信玄 6 名
 - ・真田幸村 5 名
 - ・徳川家光, 伊達政宗 4 名

以上の結果から、歴史学習に対する関心が高いことが言える。なかでも、戦国大名への関心が高いことが分かるが、本時の学習で取り扱う中世の山城や、地域の歴史に関する記述を書いた生徒は少なかった。そのため、通史と連動させて地域学習を取り入れる中で、中世の時代を生きた人々の活力を感じ取らせながら、地域への誇りも高めていきたい。

(4) 指導観

指導にあたっては、以下の点に留意して学習を展開したい。

- ・単元を貫く課題を設定し、毎時間学習課題に対しての自分なりの考えをまとめさせる。
- ・身近な地域の素材を活用することで、中世の八代の見方・考え方を養い、歴史への関心を高めさせたい。
- ・電子黒板を用いて、写真や資料を提示し、班での話し合い活動を通して意見をまとめ、課題解決につなげさせたい。
- ・中世から近世に移り変わる歴史の中で、中央の歴史と地方の歴史が連動していることに気付かせたい。

3 単元の目標

社会的事象への 関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none">・鎌倉幕府の滅亡から戦国大名の登場までの武家社会の展開、経済の発達と社会の変化、室町文化に対する関心を高め、意欲的に追究させる。・モンゴルの襲来、日明貿易、琉球の国際的な役割など、東アジア世界とのつながりに関心を高め、意欲的に追究させる。
社会的な 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none">・モンゴルの襲来や日明貿易が日本の政治や社会に与えた影響について、多面的・多角的に考察させる。・自治的な仕組みの発生、武士や民衆の活力を背景にした新しい文化の誕生といった社会の変化を、農業をはじめ諸産業の発達、政治の動きなどから多面的・多角的に考察させる。
資料活用の技能	<ul style="list-style-type: none">・鎌倉幕府の滅亡から戦国大名の登場までの武家社会の展開、経済の発達と社会の変化、室町文化に関するさまざまな資料を活用し、適切にまとめさせる。
社会的事象について の知識・理解	<ul style="list-style-type: none">・東アジア世界との関わりを背景に、鎌倉幕府の滅亡から戦国大名の登場までの武家社会の展開を理解させる。・農業をはじめとする諸産業が発達し、都市や農村に自治的な仕組みが生まれたことを理解させる。

4 単元の指導計画と評価（規準）計画（全7時間 本時 6 / 7）

次	時	主な学習活動（全国）	主な学習活動（八代）	評価
1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ユーラシア大陸での動き，モンゴルの襲来と日本の対応について理解する。 ・鎌倉幕府が滅亡した理由を，モンゴルの襲来の影響や社会の変化から考える。 		<ul style="list-style-type: none"> ・モンゴルの襲来が国内の政治におよぼした影響を，御家人の動きから考察している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵画資料から，モンゴル軍の特徴を読み取っている。 <p>【技能】</p>
<p>単元を貫く課題：政治・経済・社会が大きく変化していく中で，当時の武士たちはどのように対応していったのだろうか？ 当時の八代を舞台にして考えてみよう</p>				
2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・建武の新政から南北朝の動乱に至る経過を理解する。 ・室町幕府と鎌倉幕府の仕組みを比較して，その特徴を捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1334年に名和氏が八代荘の地頭についていたことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・建武の新政から南北朝の動乱に至る経過や，動乱がもたらした武家社会の変化を考察している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな権限を持った守護が守護大名となり，後の政治に影響をおよぼすことに気づいている。 <p>【知識・理解】</p>
3	1	<ul style="list-style-type: none"> ・東シナ海をはさんだ中国・日本・朝鮮の結びつきや，蝦夷地の動きを捉える。 ・琉球や蝦夷地の人々の交流や結びつきについて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・徳淵の津（港）を拠点に，名和氏と朝鮮との交易，相良氏と琉球・中国との交易（中継貿易）が行われていたことについて確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図を活用して，日明貿易の様子，琉球の役割，蝦夷地の動きなどを読み取っている。 <p>【技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・琉球が中継貿易で栄え，中国・朝鮮・東南アジアを結びつけていたことを理解している。 <p>【知識・理解】</p>

4	1	<ul style="list-style-type: none"> ・農業や商業・手工業などが発達し、民衆の力が伸びてきたことを理解する。 ・畿内を中心に自治的な組織が生まれたことを、土一揆などの様子から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・八代にも門前町や定期市が発達していたことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業や商業・手工業の発達が当時の社会におよぼした影響について考察している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文献資料や碑文などから、民衆の成長の様子を読み取っている。 <p>【技能】</p>
5	1	<ul style="list-style-type: none"> ・応仁の乱の原因や経過、その後の社会におよぼした影響について理解する。 ・戦国大名の登場とその支配について、応仁の乱や下剋上の風潮から考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中世の熊本の様子について、支配の勢力図をもとに読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな資料から、下剋上の風潮が全国に広がったことを読み取っている。 <p>【技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが住む地域の戦国大名に関心を持ち、意欲的に学習している。 <p>【関心・意欲・態度】</p>
6	1 本時		<ul style="list-style-type: none"> ・相良氏と名和氏が争った理由について考える。 ・当時の八代地域の重要性に気づき、郷土の歴史への関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・戦国時代の領国支配や八代地域の重要性について、資料をもとに考察している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが住む地域の戦国大名に関心を持ち、意欲的に学習している。 <p>【関心・意欲・態度】</p>
7	1	<ul style="list-style-type: none"> ・代表的な文化財を取り上げて、室町時代の文化の特色を理解する。 ・この時代に生まれた文化で、現代に受けがれているものに関心を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この時代の八代の建造物について紹介する。(悟真寺) 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統文化に関心を持ち、室町時代に生まれた文化で現代に受けつがれているものに気付いている。 <p>【関心・意欲・態度】</p>

5 本時の学習

(1) 本時の目標

相良氏と名和氏が争った理由を考えることで、戦国大名の領国支配の様子を知り、当時の八代地域の重要性に気づき、郷土の歴史への関心を高める。

(2) 本時の展開

過程	時間	主な学習活動	学習形態	○教師の指導 ・予想される生徒の反応	教材 資料等
導入	7分	1 八代の城について知る。	一斉	○八代（松江）城についての説明をする。 ○八代の城の変遷を確認する。（古麓・麦島・松江）	八代城大パノラマ スライド
展開		学習課題：戦国時代の八代の様子を知り、地域（八代）の歴史に関心を持つ			地図 写真 ワークシート
	3分	2 八代の戦国時代について考える。	一斉	○学習課題を確認させる。	
	25分	(1) 相良氏と名和氏が、八代を取り合った理由について、資料をもとに考える。	班	○資料をもとに、根拠を明確にして理由を発表させる。 ・戦いの要塞として ・交通の要所（薩摩街道）※陸路 ・球磨川の地形 ※水路 ・中央に進出するため ・交易の要所として（徳淵の津）	
5分	(2) 班の意見を発表する。	一斉		評価 スライド	
		3 教師の話聞く。	一斉	○学芸員さんの話を伝えて、多面的多角的に生徒の歴史観を拡げる。 ○学芸員さんの話を通して本時を振り返り、近世の学習へとつなげる。	
まとめ	10分	4 本時の学習課題について振り返りをする。	個人	○本時の学習を終えて感じた、八代地域の重要性や魅力について発表させる。	ワークシート

(3) 本時の評価

場面	評価基準
評価	A：戦国時代の領国支配や八代地域の重要性について関心を高め、資料をもとに考え、まとめることができる。 B：戦国時代の領国支配や八代地域の重要性について関心を持ち、資料をもとに考えることができる。

